

平成 3 年 6 月 7 日	植防情報	発表	栃木県病害虫防除所
-------------------	------	----	-----------

## 病害虫発生予察特殊報第 1 号

病害虫名 カキクダアザミウマ

### 1. 発生確認までの経過

本種は、昭和 50 年に岡山県で発見され、その後、昭和 55 年以降中国、四国、近畿地方に発生が広がり、昭和 63 年には福島県、静岡県、鹿児島県、長野県で、平成元年には神奈川県で、平成 2 年には東京都、群馬県、茨城県で発生が確認されている。

本県においても、平成 3 年 5 月 27 日に佐野農業改良普及所から病害虫専門技術員を通じ、田沼町野上のカキ園で、巻葉症状を呈する被害が発生しているとの連絡があり、被害症状およびアザミウマ類の同定をしたところカキクダアザミウマであることが判明した。

### 2. 発生状況

現地調査を行ったところ、導入 2 年目の苗木及び周辺のかきで発生が確認された。しかし、苗木を導入していない地域については発生が認められなかった。今後も継続調査を実施する予定である。

### 3. カキクダアザミウマの特徴と生態

成虫は光沢ある黒色で、体長は雌が約 3.1 mm、雄は約 2.5 mm で、体幅は 0.4 ~ 0.5 mm とアザミウマ類では大型で、肉眼でも見つけられる。卵は 0.4 mm 程度の円筒形で、淡い黄色を帯びた乳白色、半透明である。幼

虫は老熟すると体長1.8mm前後、胴部は淡橙黄色、頭部・触角・脚は黒色。  
蛹は長さ2mm、乳橙色の半透明状で歩行が可能。

本種はカキの葉と果実を加害する。通常年1回発生し、成虫態で越冬する。  
越冬世代の成虫は、4月中旬から5月上旬に、カキの未展開葉や展開して間もない葉に飛来し、加害、産卵する。ふ化した幼虫は被害葉内にあって吸汁加害するが、一部は幼果に寄生し加害する。5月末～6月上旬に加害場所で蛹化し、第1世代成虫は6月上旬ごろから出現する。成虫は加害場所を脱出して、他の葉や果実を加害しながら順次越冬場所（カキ、マツ、ヒノキ、クヌギ等の粗皮間隙）へ移動し、その後翌年4月まで越夏、越冬する。

#### 4. 被害

##### 葉での被害

被害葉は葉縁から表側の主脈に向かって縦に巻き、著しいものは両側から主脈まで完全に巻き込んで棒状になってしまう（カキの葉を加害する害虫の中では本種だけであるため、本種の発生を確認する指標となる）。また、被害部位は褐色の小斑点が散在して黄緑色になり、その後軽い火ぶくれ状になる。程度の激しい場合には、褐変して落葉する。

##### 果実での被害

被害痕は落花間もない幼果では径0.5mm程度の褐色の斑点となり、果実の肥大とともに果実の側面に帯状斑点として残る。この症状は、チャノキイロアザミウマなどによる被害痕に比べて、個々の斑点が大きく傷も深いので、容易に区別が出来る。

#### 5. 防除対策

##### (1) 当面の対策

ア. 発生が見られたら、直ちに薬剤散布を行う。

オルトラン水和剤 1000～1500倍（展葉期～幼果期 / 2回）

オフナック水和剤 1000倍（収穫前45日まで / 3回）

トクチオン水和剤

1000倍（収穫前60日まで / 5回）

（2）今後の対策

ア．成虫はカキの枝幹の粗皮の間隙で越冬しているので、冬期にカキの粗皮を削り落とし焼却処分するか土中に埋め、園内密度を下げる。

イ．越冬成虫が巻葉内に産卵を始めると防除が難しくなるので、早期発見につとめ、発生が見られたら直ちに上記薬剤を散布する。（特に新梢葉展開初期の成虫飛来期と幼虫期）